

令和7年1月15日

栗山町議会議長 鵜 川 和 彦 様

産業福祉常任委員会委員長 齊 藤 隆 浩

所 管 事 務 調 査 報 告 書

令和6年6月3日開催の産業福祉常任委員会で決定した所管事務調査を実施したので、その調査概要を次のとおり報告します。

記

1. 調査事項 栗山煉瓦創庫くりふとの現状と課題について

2. 調査日程

回	調 査 年 月 日	と こ ろ	出欠 状況	説 明 員	結 果	摘 要
1	6. 6. 27	委員会室	6	—	継 続	
2	6. 7. 30	〃	6	ブランド推進課長・同課 主幹・同課主査	〃	説 明 質 疑
3	6. 8. 29	〃	6	—	〃	
4	6. 12. 19	〃	6	ブランド推進課長・同課 主幹・合同会社ジモトフ ァブ・株式会社エフエム くりやま	〃	現地調査
5	7. 1. 15	〃	6	—	まとめ	

3. 調査内容

新町通りの再生を含む都市再生整備計画に基づく整備事業の一環として既存のレンガ倉庫を活用し整備した栗山駅南交流拠点施設「栗山煉瓦創庫くりふと」が令和5年4月のグランドオープンから1年が経過したため、現状について調査を行っ

た。

「くりふと」は、地域の賑わいづくりをはじめD I Y工房など複合的な役割と機能を盛り込んだ栗山町ならではの持続可能な観光交流拠点として設置された。

この施設では、さまざまな活動・活躍する人がまち全体に増え、さらなる人材、関係人口を掘り起こし、まち全体に波及する賑わいづくりとなるよう各種事業を展開している。

施設は、多目的ホール、展示ホール、2つの調理室、ファブラボ栗山の工作室等があり、また、メディアブースでは、令和6年7月にコミュニティ放送局「エフエムくりやま」が開局し、町民参加型の放送を行っている。

多目的ホールでは、日常はくつろぎの空間として休憩や歓談、飲食などのスペースとして利用しているほか、町図書館との連携により雑誌や図書が自由に閲覧できるブックスタンドの設置やカフェコーナー、プライベートスペースを確保するサイドパネルや観葉植物を設置するなど居心地のよい空間づくりを行っている。

また、町内イベントの魅力を広げる連携企画の実施や、地域おこし協力隊の発案から生まれたシンポジウム形式によるさまざまなテーマについてコーヒーを片手に一緒に考え、語り合う「くりやま未来カフェ」を実施。昨年は「自治体広報」、「ファブラボ栗山」をテーマに開催、本年においても「IoT 農業」をテーマに開催している。

調理室では、飲食営業や試作・加工など飲食ビジネスを支援するシェアキッチンとして個人や団体等へ貸し出しをおこなっている。複数の使用者が日替わりで出店しているため、日替わりで販売される豊富な飲食メニューを楽しめる場所となっている。独自事業としては、栗山町の食材に触れてまちの魅力を再発見してもらおうと食をテーマとした「くりふとキッチンワークショップ」を月1回程度開催している。

ファブラボ栗山は、だれもがデジタル工作設備が使えるものづくり工房で、初心者や未経験者、低年齢者から高齢者まで、誰もが理解して利用できるよう段階的なサービス利用を促している。

昨年の活用事例としては、北海道介護福祉学校で実施をしている「地域活動研究」において、栗山町が災害に見舞われた際に北海道介護福祉学校が避難所となった場合を想定し、校内にある段ボールを留め合わせ「ベッド」や「椅子」などを避難者自身で製作することができる道具「デカホッチ」や車いすユーザーや足腰の不自由な方のための「手すり」として機能する「スタンダードくん」のデザインを連携し製作、また、子ども発達サポートセンターのワークショップの企画提案を行っている。

屋外の活用としては、施設北側のエントランススペースでは様々なキッチンカーが出店、栗山駅南公園内にはスケートボードパークとバスケットゴールが設置されている。

「くりふと」の稼働実績は、令和５年度においては来館者数３０，８２４人で数値目標の３万人を達成している。また、令和６年度においても来館者数は既に目標に達している。

くりふと運営に係る令和５年度の収支状況については、歳入約２５０万円に対し、歳出は約３，７８４万円である。歳出は、施設管理・くりふとキッチン・ファブラボ栗山・スケートボードパーク・コミュニティ放送局の運営経費である。

現地調査では、コミュニティ放送局のエフエムくりやまから番組制作状況やスポンサーの現状、また、今後の課題として収益の増加策、さらにはラジオを聞いてもらうための方策、町からの運営補助金の見直しについて、そして、ファブラボ栗山を運営委託されている合同会社ジモトファブからも、ファブラボ栗山の運営状況、今後の展開などそれぞれ２社から説明を受け調査を行った。

４．意　見

以上の結果から、令和５年度、令和６年度についても来館者数は目標数値を達成していることは評価したい。今後も独自の施設主催イベント等の開催も予定しているため、来場者数が伸びている近隣の観光施設等の運営を参考にするなどし、更なる町内外からの来場者数の増加を期待する。

ファブラボ栗山については、さらにファブラボ栗山の認知につなげていくよう引き続き「ワークショップ」の開催等の取り組み、また、次世代を担う子ども達にも認知される取り組みを教育委員会をはじめ関係各課とも協議・検討し、推進願う。

今後においては、観光振興計画を早期に策定し、商工会議所、商店街、新規ビジネス事業者など関係各団体と協力し、本町の関係人口を創出する観光交流拠点の施設としての機能が十分発揮されるよう望む。